様式４の３

一般財団法人　滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

１、概要

報告日	西暦　２０２１　年　４　月　３０　日
報告者	池田　真人
助成団体名 （所属団体名）	NPO 法人 おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会
団体住所	〒　521-0082 滋賀県　都道府県　米原市能登瀬８１２・８１３
団体電話番号	０７４９　―　５２　―　３４８３
代表者 （助成対象者）	村田　輝男
助成対象事業	どろんこ塾
事業（助成）期間	2020　年　4　月　1　日 ～　2021　年　3　月　31　日
事業費総額	330,770　円
助成金総額	198,000　円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。

②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計５ページ以内**で作成してください。

③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は最小限度に留めてください。

④写真を掲載される場合は必ず撮影対象の方に事前に了承を頂くようお願いします。

⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

２、事業内容

　子どもたちがのびのびと過ごせる遊び場も減少しつつある現代社会の中で、屋外で自然を五感で感じながら、地域や年齢の垣根を超えた交流事業の必要性があると考え、子どもたちの心身の健全育成に繋がることを目的に安全で快適に学校の休日を利用しながら団体員、ボランティアが長年培ってきた生活の知恵や経験を活かした体験活動を提供し、地域の子どもたちの健やかな成長を見守る。

　現代の子どもたちは屋外で遊ぶことが減ると同時に農業に接することも少なくなっている実情を踏まえ、新鮮な感覚で田畑に入り、泥や土に触れられる時期である活動に自ら主体的に取り組める小学生を対象として、実際に土に触れ、文字どおり“どろんこ”になりながら異なる地域、異年齢交流のなかで自ら育てた農産物を採取し、育ちの過程を学びながら、実際に食していただくことをねらいとする農業を主とする体験活動「どろんこ塾」を実施。

　新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言の発令に伴い、公共施設の休館措置および学校の休校によって、「どろんこ塾」の開催延期を決定。
当初の計画スケジュールを再考し、秋～冬への実施へ変更。それに伴い、事業内容についても農作物の収穫と苗付けなども時期に合わせた内容とした。

事業スケジュール（変更後）
１０月２４日（土）１０：００～１３：００
さつまいも収穫&カレーライス
どろんこ農園にて、春先に予め植えておいたさつまいもの収穫体験とカレーライス
開催場所　どろんこ農園（高溝地先）　　参加者　４６名

１２月１２日（土）９：３０～１３：００
たまねぎ苗植え&バンブークーヘンづくり
どろんこ農園にて、春タマネギの苗植えと竹の棒で焼き上げるバンブークーヘンづくり
開催場所　どろんこ農園（高溝地先）　　参加者　４３名

　１月　６日（水）１１：３０～１３：３０
もちつき体験&看板づくり
お正月の恒例行事、きねとうすを用いた昔ながらの餅つき体験と農園に設置する看板の製作体験
開催場所　どろんこ農園（高溝地先）　　参加者　２９名

　３月３０日（火）１０：３０～１１：４０
モンキーパフォーマンス鑑賞
日本の伝統芸能猿まわし「モンキーパフォーマンス」の鑑賞
開催場所　近江公民館多目的ホール　　参加者　４３名

３、事業成果

前述のとおり、新型コロナウイルス感染症の影響によって開催時期の延期および内容の変更など、当初の予定から大幅に変更をせざるを得ない状況であったが、当初の参加募集人数を上回る子どもたちの参加を得られたことにより、再考したスケジュールに沿って地域ボランティアとともに各回とも円滑に図れた。

事業実施時には、密閉・密集・密接の三密を避け、参加者同士が一定の距離を保つなどの対応を図り、回毎にマスクの着用、受付時の手指の消毒、体温測定を徹底。関係スタッフにも同様の対策を講じることで、感染リスクを最小限に抑えて各事業を実施。

子どもたちに学校や家庭ではできない、農業を主とするさまざまな体験活動によって、異なる地域、年齢の子どもたち同士が交流しながら楽しく活動を図ることができた。

参加児童や保護者にも理解を得られたことに加えて、各内容とも複数名の地域ボランティアに協力いただき、少人数で活動している当団体にとって大きなチカラとなった。

参加児童からは、次年度の開催を望む声も多く、今後も可能な限り当事業を継続し、子どもたちに地域の異世代、異年齢交流の機会と心身の健全育成につながり、自然に触れ合える農業を主とする活動を提供していくことで、新たな興味・関心の芽生えや地域に愛着をもつ気持ちを育むひとつのきっかけづくりの一役を担うことができればと考えている。

４、今後の課題など

　現在も新型コロナウイルス感染症の影響が県内外を問わず広域的にあるなかで、状況を常に注視し、事業の実施および参加者の視点に立った事業スケジュールを計画することで、今回のような事態に備えたによって安心・安全な事業プランを提供する。
　おもな事業内容が農業体験など屋外での体験活動の為、天候によって左右されることによる不安定要素はあるが、子どもたちによりよい体験をしていただけるよう万全のサポートで臨む。

・事業内容について
参加対象は子どもたちのみであったが、今後は保護者も一緒に参加できるような体験活動など交流事業の積極的な実施に加えて、農業のみならず、地域の文化や歴史を学ぶことを含んだ事業内容の実施も検討していく。

・支援ボランティアの育成
　地域・年齢を問わず、より多くの子どもたちに参加いただけるよう事業規模を広げていくために必要となるマンパワー、地域の新たな人材発掘・育成として、自主的に関わっていただける人材（ボランティア）の確保を目指していく。さらには、事業継続につながるチカラとこれまで以上に地域に根ざした事業となるようボランティア以外にも地域の各種団体との連携に取り組む。

　事業を通じて、保護者や地域住民、事業に関わるスタッフ相互のコミュニケーションを図ることで、良好な関係性の中から新たなコミュニティが育まれ、地域の枠を超えた子どもたちの健全育成体験活動を目的に次年度以降も地域ボランティアとともに事業実施に努める。